

大学・高専機能強化支援事業
令和 6 年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和6年 11 月 20 日(水)	区分	支援2大学(一般枠)
選定年度	令和5年度	大学名	久留米工業大学
設置等組織名	<修士>工学研究科電子情報システム工学専攻	設置・定員増員年度	<修士>工学研究科電子情報システム工学専攻(R6・R7増員)
事業計画名	久留米工業大学大学院工学研究科(電子情報システム工学専攻)における収容定員の増員		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

・事業計画が概ね計画通り進捗していることが確認できた。

・教員確保については、教授相当の教員を 1 名確保しているが、2 名については、引き続き公募を行っている状況である。地域課題解決型 PBL において、素晴らしい成果を上げていることから、連携企業からの人事交流等による人材の確保や実務経験のある教員を任期付きで採用するなど、終身雇用にとらわれない新たな時代の新たな教員採用のあり方を模索し、より質の高い教員の採用を進めることが期待される。

(2) 好事例や把握された事業の成果

・9年一貫教育を掲げ、他機関との連携を推進しており、課題発見・解決型高大接続プログラム、DX ハイスクール、女子中高生の理系進路選択支援プログラム等との連携等による高大接続を行っている。これらの取組により、特に、初等中等教育段階からの情報系人材育成の掘り起こしや、高校生・高校教員の意識改革につながることができれば、全国に広がるモデルケース、大きなインパクトとなることが期待される。

・近隣の大学での AI・データサイエンス分野の講義、地域課題解決型 PBL での女子大学の学生の参加、短期大学からの編入学の受入れ等、多様な学びの場を提供しており、特に女子学生の確保につながることができれば、多様性の時代において、専門教育の質や領域の幅が広がるなど、良い影響を及ぼすことが期待される。

・地域課題解決型 PBL について、久留米 ICT 組合との連携など、地域に密着して、具体的な課題解決に取り組む体系的なプログラムが提供されている。学生からの評価も高く、「教員との距離が近い」との意見があった。専門内容に直接関連しないものであっても、成果が見える形で提供されている点も評価が高い。今後も学生の教育に留まらず、地域との連携を強化しながら、地域貢献を進めていくことが期待される。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

・学生からは、大学生活に関わる要望には、大学も積極的に聞いて対応してくれているとの意見があった一方、キャンパスの環境について、学生の活動スペースが少ないとの意見があった。今後、新棟の完成により学生の活動スペースは拡充予定ではあるが、引き続き、キャンパスでの快適さ向上のための環境整備に配慮いただきたい。